

科目名	国際協力実践演習 I	担当教員	東智美・大嶋英一
科目属性	専門科目群 F	単位数	2単位(面接 0.5 単位)
<p>【授業概要】</p> <p>青年海外協力隊として現地で活躍中の隊員が、自己の活動内容をもとに行う演習である。演習 I では、原則として在外での活動一年目の隊員が現場での状況を報告し、それをもとに演習を行う。具体的には、第一に、取り組もうとする課題をめぐって派遣された国・地域の現状を分析し、問題解決のための手段の検討を行い、活動の目的を整理する。第二に、実際に活動に従事する中で、当初の活動計画と現状との間にどのような違いがあり、その違いはなぜ生じたのかを、JICA に提出する隊員報告書を元に分析する。第三に、現場で遭遇した問題の概要などについて報告するとともに、計画の修正を行う。スクーリングの前半では、これらの分析や報告をもとに、協力隊活動をより意義深いものにする方途や、問題を克服するためにどうしたらよいかなどについて議論する。後半では、ケースを用いて、国際協力の課題について考察する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協力隊活動で取り組む課題の背景・現状・課題を理解する。 2. 活動計画と現状のギャップを分析し、活動に反映させることができるようになる。 3. 開発協力の意義と課題についての考察を深める。 <p>【授業計画】</p> <p>活動を実施しながら、取り組む課題についての分析を行い、活動の目的を明確化し、課題を抽出する。隊員報告書を参照しながら、活動実践のなかで行なった調査・分析をレポートにまとめる（第 1～10 回）。レポートの内容に基づき、スクーリングにおいてプレゼンテーションを行い、受講生・教員で議論を行う（第 11～14 回）。またスクーリングでは、ケース・メソッドを用いて、開発協力の課題を考える。スクーリングの終了後、科目修得試験（レポート形式）に臨む。</p> <p>第 1 回 現状を知る（1）活動地域・分野の概要：活動する地域・分野の基礎データ・基礎文献を調査し、抱える課題を把握する</p> <p>第 2 回 現状を知る（2）配属先の現状：配属先の事業内容、組織体制、援助受け入れ実績、ニーズを把握する</p> <p>第 3 回 活動計画準備（1）関係者分析：誰がどのように活動に関わっているのか？</p> <p>第 4 回 活動計画準備（2）問題分析：何が問題か？</p> <p>第 5 回 活動計画準備（3）目的分析：目的が解決された状態はどのようなものか？</p> <p>第 6 回 活動計画準備（4）アプローチの選択：どのように目的の達成を目指すか？</p> <p>第 7 回 活動計画準備（5）指標の設定：どのように目的の達成の有無を評価するか？</p> <p>第 8 回 モニタリング：計画と現状の間にはどのようなギャップがあるか？</p> <p>第 9 回 中間評価：これまでの活動で目的はどの程度達成されたか？どのような課題があるか？</p> <p>第 10 回 報告（1）：これまで考察した内容に基づくレポート作成</p> <p>第 11 回 報告（2）：レポートに基づくプレゼンテーション</p> <p>第 12 回 ディスカッション：課題・改善策に関する議論</p>			

第 13 回 ケース・スタディ（1）：経済援助の課題

第 14 回 ケース・スタディ（2）：社会開発の課題

第 15 回 活動計画の修正

【評価方法】

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

【教科書】

- 佐原隆幸・徳永達己『国際協力アクティブ・ラーニングワークでつかむグローバルキャリア』（弘文堂、2016年）

【参考図書】

- 山口しのぶ・毛利勝彦・国際開発高等教育機構編『ケースで学ぶ国際開発』（東信堂、2011年）
- 中田豊一『ボランティア未来論：私が気づけば社会が変わる』（コモンズ、2000年）